



# 三中だより

中野区立第三中学校

第8号

平成28年12月10日発行

## 学校教育向上事業研究発表会を終えて

校長 齊藤 久

11月18日（金）5・6校時、平成27・28年の2年間に渡り中野区教育委員会の指定を受けて取り組んだ学校教育向上事業「国際理解教育の推進」の研究発表会を開催したところ、約100名に来校していただき心より感謝申し上げます。

平成27年3月、本校の校長として着任してから1年が過ぎようとしていた頃、将来、国際社会で仕事をしたいという夢や希望をもっている生徒が多いことに私は気付きました。その夢や希望を支えている要因の1つは、情報化社会の進展により、海外の情報を容易に取得することができるようになった社会背景があげられます。また、第三中学校は、昭和49年に当時の文部省から海外子女教育研究協力校に指定され、たくさんの帰国生徒を受け入れてきた歴史があります。現在でも全校生徒の約20%は帰国生徒です。海外で生活を経験した生徒との触れ合いを通して、世界と日本との距離の短さや将来の活躍の場を国際社会に向ける視点が育まれています。このような学校の実態を踏まえ、生徒の夢や希望の実現に向け、中野区教育委員会の指定を受け、各教科、総合的な学習の時間、道徳の時間を中心に、国際理解教育の視点で教育活動を展開し、グローバル人材の基礎を育むためには、授業における言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を向上させることが必要であると捉え、研究に取り組みました。



2年間の研究を終え、三中生を対象とした国際理解アンケート結果から研究の成果を以下にまとめてみます。

- (1) 将来、留学や海外で働きたい生徒の割合が増えた。
- (2) 語学を学び、外国の人と交流したい生徒の割合が増えた。
- (3) 困っている外国人と出会った場合、自分から声をかける生徒の割合が増えた。
- (4) 国を越えて誰とでも積極的に仲良くする生徒の割合が増えた。
- (5) 2020東京大会へボランティア等で参加したい生徒の割合が2、3年生で50%を超えた。



今回の研究は世界へ視野を広げることを重点に取り組んだ結果、日本人としてのアイデンティティーの確立について課題が残りました。来年度で歴史を閉じる三中ですが、伝統を大切に、生徒にとって毎日が充実する中学校となるように今後とも邁進していく所存です。

## 今後の主な予定

1 2月22日 (木) 年内授業最終日

1 2月26日 (月) 冬季休業日始 (~1月7日)

1月10日 (火) 授業再開日

1月14日 (土) 学校公開日

1月25日 (水) 2学年スキー教室 (~27日)

1月26日 (木) 都立推薦入試 (~1月27日)

### 薬物乱用防止教室

生活指導主任 土屋 美樹



11月17日 (木) 5、6校時に中野警察署スクールサポーター白濱貫治様を講師にお迎えして薬物乱用防止教室を実施いたしました。

薬物乱用に至るまでの過程、医薬品と薬物の違い、種類などの説明、中高生へも広がりはじめていること、薬物使用は自分の脳を破壊してしまう犯罪であり、踏みとどまる勇気、心の強さを身につけて欲しいとまとめられました。DVDでは甘い言葉で誘われ、軽い気持ちで始めてしまいやめられなくなった事例、脳が委縮し様々な

幻覚が見えたりすることなどを具体的な映像と共に学びました。

どの生徒も、真剣に聴いて考えていました。今回学んだことを忘れず、一生涯誘惑に負けず、はっきりと断る強い気持ちを持ってほしいと思います。薬物のみならず、危険なことや注意すべきこと、断る勇気、自分の身は自分自身が守ることなど、家庭や学校で繰り返し伝え、考えさせていくことが大切だと考えています。ご家庭でも話題にしていだけますようお願い申し上げます。



～ 三中生が考えた薬物乱用防止標語を紹介します ～

- その一回 壊す未来と君の夢 みんなで持とう 断る勇気
- *Drugs kill the world , not just yourself*
- 踏まないで 悪の連鎖の 第一歩
- ダメだよ 止めよう やらない その言葉と勇気が自分を守る最大の武器

### 学校教育向上事業研究発表会

副校長 三保谷 浩貴 第二学年 岩淵 孝太

11月18日 (金) 「学校教育向上事業研究発表会」の5校時の公開授業の様子をお知らせします。

第1学年では世界の諸地域 (留学生が先生！交流学习) という取組を行いました。A組にはイタリアから、B組にはウズベキスタンから留学生を招いて、それぞれの国についての自然や気候などの地理的環境や生活習慣につ



いて学びました。異文化と接することの楽しさなどを通して、国際感覚を身につけ、日本との違いを感じることができました。

第2学年では、「世界ともだちプロジェクト」の発表を行いました。班ごとに、これまで取り組んできた外国についての調べ学習のまとめを発表しました。スペイン（ヨーロッパ州）、バハマ国（北アメリカ州）、アンゴラ共和国（アフリカ州）、トーゴ共和国（アフリカ州）、東ティモール民主共和国（アジア



州) の5か国について調べました。9月には、アンゴラ大使館職員の方による講演や東ティモール大使による講演を聴き、国際理解を深めました。班ごとの調べ学習を通して、豊かな国際感覚を養うことができました。発表当日は、どの班も分かりやすく工夫された発表を行うことができました。他の班の発表を聴き、さらに国際理

解を深めることができました。

第3学年のA組では土屋美樹主任教諭による英語の授業を行いました。単元は Stevie Wonder～The Power of music～です。音楽の力で人々のために尽力するスティービーワンダーの半生について読み取りました。この課にむけて2年生では“I Just Call To Say



I Love You”を、3年前期には“Ebony & Ivory”を、10月には“Happy Birthday”というスティービーの楽曲を歌ってきました。授業では教科書本文にある“Stevie wants to make the world a better place.”という文の a better place とはどのような場所なのか、生徒一人ひとりが考えたことを言語化し、



意見交換しました。B組での道徳の授業では、「和の心」(JAXA 宇宙教育センター)を資料として活用しました。この資料は2013年11月7日～2014年5月14日まで国際宇宙ステーションで滞在クルーとして任務に当たった若田光一宇宙飛行士が、日本人で初の船長を任され指揮をした時の、実際に経験した話です。若田さんが船長として指名されたときから心に刻んできた「和の心」に若田さんの行動から気付かせ、生徒同士の言語活動を通して自分との関わりとして考えました。

## 食育授業

### 養護教諭 中角 友紀

11月25日(金)に1学年を対象に「自分の成長に必要な栄養量を知ろう!」をテーマに栄養士と養護教諭で食育授業を実施しました。

事前のアンケート調査や食事チェックシートを踏まえ、「自分に必要なエネルギー量」、「栄養バランス」、「主食・主菜・副菜の量」について考えてもらいました。

ご飯のモデルを使い、普段の給食でよそっているご飯の量を確認してもらった後、実際に必要な量を提示すると「全然足りてない」、「これくらい食べても大丈夫なんだ」といった声が聞かれました。





普段何気なく食べている食事について、改めて振り返る機会になったようです。学んだことを今後の生活にいかしていただきたいと思います。職員室前のガラスケースにごはんのモデルを飾ってありますのでご覧になり、参考にしてください。

授業後の感想の一部を紹介します。

○自分が思っていたよりも栄養量が必要だと知ったので、成長期に必要な栄養をバランスよくとっていきたいです。

○いつも給食を減らしてしまうので、好き嫌いをなくして栄養バランスのよい食事をしたいなと思いました。

○朝や昼もなるべく残さないように食べたい。苦手なものも一口は食べる。野菜（副菜）などが少ないと思ったので、これからは今までよりも多くとりたい。

○量なんて、そんなに気にしたことすらなかったので、これからは良く考えて食べることにした。



## 職場体験

第二学年 高橋 美保子

2年生は11月22日から3日間、職場体験に参加しました。7月から先生たちは手分けをして受け入れ先の事業所探しをしました。業務が多忙で生徒への対応ができない等、お断りをされた事業所も少なくありませんでしたが、24事業所の協力のもと無事終了することができました。

職場体験当日までに、日程確認の電話をかけたり、事前打ち合わせの訪問をする必要があります。日頃、SNS等で連絡を済ませることが多い生徒たちは、初めての相手と正しい言葉で連絡を取ることにとっても緊張したようです。事前訪問は、先に実施されたマナー講座で教えていただいたあいさつの仕方、身だしなみ、話し方等を「実践」として生



かす機会となりました。

体験2日目、観測史上初の積雪に見舞われましたが、生徒たちは「昨日より仕事に慣れて楽しい!」と元気に活動していました。活動を通して「思っていたより大変」「こんな細かいことまで考えているなんて知らなかった」と今までと違う視点からの感想を持ったよう



です。

職場では「中学生時代に身につけておいた方が良いこと」「やりがいを感じる時」などのインタビューをしてきました。これらについては事後学習としてまとめをします。その成果は12月10日(土)授業公開・3校時で発表し、生徒同士の情報交換とする予定です。

最後に、事業所の皆様をはじめ職場体験を支えてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

